

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572809382		
法人名	特定非営利活動法人 エスピオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん稲川		
所在地	秋田県湯沢市川連町字大館川原120番地		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節毎の風景を楽しむ事が出来る場所にホームがあり、春の緑や秋の紅葉の赤に利用者様も感嘆されております。
1, 2階で18名(男性4名、女性14名)が暮らしておられます。個人を尊重し、お一人、お一人に合った対応を心がけており、穏やかな雰囲気の中で生活しておられます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年2月26日		

利用者が地域の方々との繋がりが実感できる夏祭りが新型コロナウイルスの影響で中止となり、また、面会や外出制限等、感染防止対策を行っていることで日常が以前とは異なっていますが、管理者はじめ職員は利用者の状態にあった生活で自宅に居るように過ごせる場を提供できるよう努力しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は1, 2階見える所に掲示してあり職員全員で共有し実践に繋げている。又、毎年、1, 2階で目標をたて掲示し、目標に向かって努力している	1,2階のユニットにそれぞれの目標を掲示して共有しています。年度末に管理者と職員が目標を振り返り、日々のケアに活かされているか、介護計画の見直しに繋げているか確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのこともあり、外出、面会の禁止などの対応を行った。為か、各繋がりが、途絶えた感があり。	買い物やホームの夏祭りで地域と交流できていたましたが、新型コロナウイルスの感染防止に努めたこともあって外部との交流はほとんどなく、不定期ではあるものの訪問理容は継続して利用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近隣の方々の入所申し込みもあり、希望に応じて見学もして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのこともあり、運営推進会議は開催せず行政に報告書の提出を行った事で開催したとみなされる。意見の交換はなされていない。	行政、地域の方々等が参加して意見を出していただく取り組みが行われていたましたが、現在はコロナ禍のため資料送付にとどまっており、意見の収集には至っておりません。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の各部署の方々とは申請、申し込み相談等で関係の構築に取り組んでいる。	運営推進会議が例年通り開催できない状況ですが、包括支援センター他各部署と連携を図って利用者の支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体拘束について理解出来ており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	危険回避のために階段に常時施錠しておりましたが、運営推進会議でも話し合い、施錠する時間を決める等の対策をして取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティング開催の時に不適切なケアについて話す機会を設けていて、常に防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について詳しくは理解していないが利用者が制度を利用することについての報告等は職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明や家族様、ご本人の希望要望を伺っていて、不明な点については、いつでも電話等で承っているのと伝える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お知らせや、お手紙を家族様に出す時などにご意見などについて、いつでも承っていることを伝えている。	家族には担当職員が毎月利用者の様子を報告しています。利用料の支払いに訪れた時や電話等で家族の意見を聞き、対応を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回のミーティング時に話し合いの場を設けている。	備品の調達や環境改善等、職員の意見が代表に伝わり、業務に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長より、管理者に職員の勤務状況についての聞き取りなどあり指示を受けたり、相談に応じて頂いたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講や資格の取得については理解を頂いている。又、それに伴う勤務の変更、調整などにも協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湯沢市で開催する認知症ケアの研修等に今までは参加していたが、今年度はコロナもあり研修等に参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人がホームで生活していくうえでの希望、要望等を伺い安心できるような関係づくりに努めている。こまめな声掛けなど、様子見していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様がホームで暮らしていくうえでのご希望、要望などを伺っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を多くしコミュニケーションをとり、利用者様には出来る事をお手伝い頂いて生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会禁止としているが月一の報告書に写真を添えて元気で暮らしている事をお伝えしている。時には電話でお話されることもあり。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの関係もあり、なるべく外出も控えているが受診などで車で行くところを知っていると教えて下さることがある。	家族や親類の面会を積極的に受け入れておりましたが、コロナ禍の現在はこれまで行っていたことも難しくなっています。行きつけの床屋さんにはホームに来ていただき、馴染みの関係を維持しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して席替えなどもする。利用者同士、挨拶している光景も見られる。難しい場合は職員が入り対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、何か不明な事がありましたら連絡くださいとお声掛けをしている。今年度は退居してからの利用者さまの家族様より度々お電話あり、お話を伺った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6月、12月と年2回、意向、希望の調査を担当の職員より聞き取り調査していただく。	日々のケアを通して利用者の言動等を観察し、思いを把握できるように努めています。リズムシートに記載すると共に申し送りで伝え、情報の共有を図っています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、についての書類、サマリーなどに目を通し把握に努める。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの生活の様子を確認したり、記録を見たりしながら一人一人の生活を把握を把握していく。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ご本人の現状に沿った支援をしていく為に本人、家族、医師などの話し合いをもとにモニタリングを行いながらプランを作っている。	日々の記録等をもとにして毎月モニタリングを行い、話し合いを通じて現状に即した介護計画を作成しています。	介護記録の負担軽減を図り、利用者との関わりの時間を増やすための工夫を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録のファイルがあり職員間で共有出来ている。月一のモニタリングにて見直しを行うのに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで制限される中、繋がりを模索しているがホームに出向いて下さる、出張床屋さん、Drと話をし安心したり、サッパリしたりする事が出来る。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族様、本人に、お話を進めていく。緊急の場合についても家族様に連絡をとり状況の説明を行い、適切な治療を受ける事が出来るように速やかに対応していく。	入居時に意向を確認し、希望に沿って支援しており、訪問診療を受けている方もおります。歯科については状態に応じて訪問診療或いは通院で対応することになっています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、いないため、日中はかかりつけ医の看護師、夜間は救外の看護師より助言を頂き適切な受診がうけられるようにしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院側より話し合いの場を設けて頂き利用者様の今後についての話し合いあり。場合によっては医師からの詳しい説明もあり。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ることの説明を家族様にお話させて頂き方針を共有し利用者様の今後に対応していく	これまで終末期の支援が行われておりませんでした。家族の希望にかかりつけ医が応じ、ホームでの看取りが行われました。かかりつけ医によっては希望に沿えないことが考えられるため、今後の検討課題となっています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を開催している。AED設置しており、使用方法について把握している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を消防署立ち合いで年2回行っているが今年度はホームのみで行う。各災害時には緊急連絡網を利用し職員が駆けつけることになっている。水害の避難に関しては日中から勤務している職員間で相談する事としている。	例年の訓練は消防団の協力を得て行われ、飲料水、食料の備蓄もしています。指定避難場所の設備を確認しており、携帯トイレの準備をしています。	2階居住の利用者を安全に避難させることができるよう、訓練を重ねながら見直していく取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての接し方、言葉遣いで対応していくこととしている。	言葉遣いや対応の仕方には十分注意しています。不適切な言動があった場合は管理者が注意喚起し、ホームの問題として改善に向けて取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な環境づくり、自己決定の手伝いなど心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の配分など、どうしてもホーム側よりの決まりとなっているが、例えば天気が良いから外出したい何々が食べたいなど、なるべく希望に応じて対応しているつもりである。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意見を尊重し、支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や子供の頃、食べた食品、好みの食事など提供させていただいている。盛り付けや片付けなどについても、お手伝いさせていただいている。	職員は利用者の好みを把握しており、食材を確認して献立を決めています。干し柿づくりを一緒にしたり、テレビを観てこんなのが食べたいという希望に応じたりしながら食事が楽しいものにできるよう取り組んでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事、水分の摂取量について記録している。制限のある方については、初めから摂取量をきめて支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に見合った口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレを使用し、夜間は、個々に応じて又利用者様、家族様に許可をえてポータブルトイレを使用されている。	トイレでの排泄を基本に支援しており、チェック表を活用して現状維持に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ゼリーなどを提供している。又、ホーム内の散歩(利用者様に聞いて)など付き添いにて実施している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決めてしまっているが、バイタルやご本人の意向なども含めて入浴していただいている。平均して全員の方々が同じように入浴できるように配慮している。	利用者の希望によって入浴日が変更になることがあります。チェック表で確認しながら意向に沿って対応し、週2～3回の支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、対応させていただいている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のバイタル測定や、様子の確認を行い受診時、かかりつけ医に状態を伝える。お薬増えた場合などはようすの観察を行い、かかりつけ医に相談する場合もあり。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎に誕生日会を開いたり、出来る事を手伝っていただいたり、レクリエーションの中で手伝っていただいたり、季節毎の食材を使って食事の提供をしたり様々と考えて対応している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、外出も盛んであったが現在はコロナのこともあり、外出、買い物等も控えている。	感染防止のため外出が困難な状況ですが、桜や公園等、車中からの風景を楽しみにドライブに出かけている他、ホームの前に出て外気浴をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際、家族様やご本人の意向の下に、お金の所持について決めて頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物や、お手紙が届いたりした場合には利用者様に伝えてから希望に応じた支援をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共有出来る場所には、見て楽しめたり出来るように工夫をおこなっている(季節毎の飾りつけ、写真等)又、排泄の匂いに対しては換気したり電化製品で対応している。	居室の位置による温度差に気を配り、居心地よく過ごせるように温度湿度管理に努めています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内が縦に長いので、1,2人で窓からの景色を見たりされている。又各所に座れるイスなどを置いて対応に努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のお部屋には、ご自宅で使用されていた物品をもって来ていただいて心地良くすごして頂けるように配慮している。	位牌や使い慣れたもの、好みのものを持参している他、ホームにあるものを有効に使って生活環境を整え、安心して過ごせる居室づくりをしています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札が掛かっていてご自分の部屋がわかるようにしている。又、部屋数も多い為、トイレ等にも分かりやすいように矢印を付けたりしている。又、段差のない床で安全に移動出来る。		